

敦賀 3・4 号増設計画に同意しないで下さい

もんじゅの運転再開を認めず、廃炉を求めて下さい

私たちは本日、敦賀市で「原発新・増設を考える」つどいをもちました。福井、福島、川内、浜岡島根など原発立地点の話を聞き、原発誘致が地域振興につながっていないことが明らかになりました。原子力産業は売り上げや研究者数が半減し、電力会社も人員削減や経営多角化を進め、原発の 400 日を超える長期連続運転や昼夜突貫による定期点検の 40 日化などコストダウンに血眼です。立地点住民はチェルノブイリ事故や JCO 事故のような恐ろしい重大事故に襲われる危険をことあるごとに想起させられています。日本が地震の活動期に入ったいま、「原発震災」が心配です。立地点住民の多くはこのような状態から一日も早く脱却したいと望んでいます。21 万の「これ以上の原発はいらない」県民署名と 22 万の「もんじゅを動かさないでください」県民署名が、それを端的に物語っています。

高浜原発のプルサーマル計画は英 BNFL のデータねつ造事件で延期され、福島県と新潟県のプルサーマル計画も延期されました。新潟県刈羽村では本日、プルサーマル計画の是非を巡る住民投票が行われました。また、福島原発と川内原発では知事が増設計画を留保しました。福島県知事は、原発立地点の立場から政府の原発・核燃料サイクル推進策を見直し提言する作業を進めています。3 県知事提言を主導した福井県は最も遅れた県になってしまいました。JCO 事故を契機に東海村は「原子力の街」の看板をはずしました。東海村と並び日本の原子力政策に貢献してきた自治体として、今こそ脱原発への転換の英断を下すべきです。

ここに以下の申し入れを行います。真摯な検討と誠実な対応を期待します。

1. 来年 1 月とされる「敦賀 3・4 号増設計画に関する国への知事意見回答」で、これに同意しないで下さい。福井県自身による原発 15 基体制の総括でも原発誘致による電源地域の振興は不十分としており、原発に頼らない地域振興策を真剣に考え、実施してください。
2. 日本は地震の活動期に入りました。「地表に活断層のない地点でもマグニチュード 7 クラスの地震は起こり得る」というのが地震学界の現在の常識です。この規模の地震が原発直下で起きても耐えられるように原発耐震設計審査指針を変更すべきだと政府に求めて下さい。その新指針に基づいて安全が保証されない限り、原発の運転を認めないで下さい。
3. 高速増殖炉実証炉計画から切り離され、国民的合意も得られていない「もんじゅ」の運転再開を一切認めないで下さい。もんじゅ改造工事の安全審査入りを事前了解しないで下さい。
4. 落ち目で重大事故の危険を増し地域振興につながらない原子力に福井県の未来を託すのはもうやめて下さい。原発依存の県政から脱却し、「地域の時代」にふさわしい豊かな自然と地域社会を守り育てる県政に脱皮して下さい。

2001 年 5 月 27 日「原発新・増設を考える」つどい参加者一同

つどい主催団体:原発に反対する福井県民会議、つるが草の根の会、若狭連帯行動ネットワーク